

タイガの秘密

君はミカと付き合っている。だがそのことは隠している。今時珍しいが、サークル内恋愛が禁止なのだ。時代錯誤も甚だしい。変に突っかかれても面倒なので、ミカと君が付き合っているのは言わないようにしている。そんな中起きた館の騒動。カグラの幽霊がヒロミを殺した？彼女はそんな勇気のある人間ではなかった。自ら自殺を選ぶ人物だ。君は、彼女のことをよく知っていた。カグラは1年前にオカ研に所属していた女性で、当時君はカグラのことを愛していた。だがサークル内恋愛が禁止という取り決めもあるためなかなか言い出せずにいた。しかし、いつまでもうじうじ彼女に想いを伝えられないのは、もう我慢ならなかった。決意する、彼女に告白をすると。しかし告白は失敗した。

あの女、対して可愛くも無いのに自分のことを振ったのである。君は男としてのプライドをズタズタに引き裂かれた。いつしか愛情は憎悪に変わり、その矛先はカグラに向いていた。その日から君の陰湿な嫌がらせが始まる。嫌がらせは日々エスカレートしていった。その結果待ち受けていたのは、自殺だった。カグラが首を吊って死んでしまったのである。その時に初めて自らがしたことを意識した。しかしもうすでに遅い。彼女は死んでしまったのだ。カグラが自分のことを振ったのがすべて悪いのだ。いつの日からか君は、そう自分に言い聞かせるようになった。その後、ミカから告白された。ミカのことはたいして好きではなかったが、誰でも良かった。ぽっかりと空いた心の穴を、誰でも良いので埋めてほしかった。

ある日、ヒロミがサークルで無人島にある、とある館に行こうという話になった。どうやらその館は"出る"とのことで、君たちはその場所へ向かう事に。

船に揺られると島が見えてきた。港に到着し、サークルのメンバーと歩いて行く。しばらくすると、例の館が見えてきた。円柱の紫がかった建物で、あまり手入れされていないのか外壁は所々色が落ちていた。建物の装飾は正面の大きな玄関扉と、それぞれの部屋に小さな窓がついているだけである。

中もまた、特徴的だった。正面にはエレベーターがついており、それを取り囲むかのようにつるりとした曲面の廊下が左右に続いている。2階に寝室があるようで、部屋の割り当てがされた。エレベーターの独特な浮遊感に眼を回しながら2階へと向かう。エレベーターから出て、左手の部屋に割り当てられた。元々部屋にプレートがついていたようだが、既にとりはずされてしまっている。部屋は思ったより綺麗だった。部屋の中は簡素な机とベッドが置かれており、机の上に置いてある小さな犬と猪の置物ががじっとこちらを見ているばかりだ。窓を覗くと殺風景な風景が

広がっていたが、真正面に物置小屋のような建物が建っている。あそこまで歩くと結構かかりそうだ。

実は数日前からヒロミに迫られている。物理的ではなく、恋愛の意味で。彼女からのアプローチは決して嫌ではなかった。むしろ嬉しくさえ思う。そのうえでミカことは邪魔くさくすら感じ始めていた。館で過ごしている時、ミカが部屋にやってきた。彼女の相手をしていて、少し目を離れた隙にミカが君のスマートフォンを見ていた。ヒロミとのメッセージのやり取りを見られ、彼女が怒りだしたのである。面倒なことになった。適当な言い訳をしていると彼女は怒り、部屋から出ていってしまう……まあ仕方ない。君は部屋の鍵を掛けベッドへと戻り、深い眠りについた。

【君の部屋に残されているもの】

白い手袋：軽い潔癖症のため、出来るだけ肌身離さずに持っている。

リボン　：ミカが髪を結ぶためにいつも身に着けているリボン。部屋に忘れていったようだ。

【タツオについて】

ヒロミのことが好きだと相談を受けたことがある。

【ミカについて】

付き合っている女性。鬱陶しいし別れを告げようか悩んでいる。

【ネズヨについて】

大人しい女性。君とは釣り合わないだろう。

【ユウトについて】

君を差し置いて、カグラとは仲が良かった記憶がある。

【ヒロミについて】

良い女。ミカなんか付き合わずに、彼女にアプローチをしたら良かったと、今は後悔している。

目標

ヒロミを殺した人物に投票する。【3点】

ミカと付き合っていたことを知られない。【2点】

カグラに嫌がらせをしていたことを知られない。【3点】

昨夜の君の行動

23：00～ 自分の部屋へと戻り、タツオとユウトとゲームをして過ごす。

23：20～ ユウトがリビングの様子を見に行くと行っていたので、ついでに君はユウトと1階のトイレへ向かう。エレベーターを使用し降り、ユウトはリビングの方へと向かった。

23：30～ トイレを済ませ、タイガの部屋へと戻る。

00：00～ 夜も遅くなってきたので、鍵を閉めに回る。暇なのか、タツオもついてくる。キッチンの鍵を閉め、1階と2階の廊下の鍵を四つとも閉める。その後リビングの鍵も閉め、エレベーターから部屋へと戻った。

00：10～ 風呂へ。男性は全員いた。

00：50～ 部屋へと戻りくつろぐ。

01：00～ ユウトの部屋の扉が開く音がする。その後部屋をノックされ、ユウトが部屋を訪ねてきた。軽くゲームをしつつ他愛のない話をする。30分程話す。

01：30～ ユウトが部屋へ戻るそうだ。彼が出ていく前に、誰かがエレベーターを使用する音が聞こえた。ユウトが部屋から出ていき、ユウトの部屋の扉が開く音がする。
すぐに部屋を出て右手の扉が開く音がする。その後、部屋がノックされた。出るとそこにいたのはミカだった。そこからはしばらく、ミカと二人で話していた。

01：40～ ミカが部屋へ来てしばらく、君はトイレへと向かった。エレベーターを使用し1階へ降りる。その後トイレをすませ、部屋へと戻る。君たちはしばらくの間、一緒に過ごした。

01：50～ ユウトの部屋の扉が開く音がした。

02：20～ いつ確認したのか分からないがヒロミからのメッセージの件でミカと喧嘩をした。ミカが部屋から出ていく。君は就寝の準備を始める。

02：30～ エレベーターの音が聞こえた。誰かが1階へ向かったのか、戻ってきたのか。気にも留めず、ベッドに入り就寝。

2階見取り図

タイガの部屋からは扉を出て「右手の廊下の扉」、「ユウトの部屋の扉」、「エレベーターの使用音」が聞こえる。リビングの鍵は机の上に置いていた。君が部屋にいないタイミングであれば、鍵を盗むことは可能だろう。

